



岩国市・周南市・防府市  
(1933～2001)

岩川隆は、昭和八年、現在の岩国市に生まれた。旧制防府中学・防府高校・広島大学を出て上京、梶山季之のトップ屋集団「梶山師団」に所属した。雑誌記者として活躍後、本格的に作家活動を開始。ルポルタージュを得意とし、政治・経済・社会物からスポーツ物まで幅広く執筆した。BC級戦犯裁判の問題にはとりわけ関心が深く、ライフワークとなる。ノンフィクション・評伝・小説などを数多く著し、歴史の行間に埋もれていく人々の真実を、旺盛な好奇心と徹底した取材で浮き上がらせた個性派作家。「岩川の歩いたあとには草一本生えていない」と言われ、地を這うような精力的な取材をもとに執筆を続けた。  
(森川信夫)

**【主な著作】**

小説『海峡』（文藝春秋、昭和57年）

評伝『どうしやうもない私ーわが山頭火伝』

（講談社、平成元年）

ノンフィクション

『孤島の土となるともーBC級戦犯裁判』

（講談社、平成7年）